

カラマツをふんだんに使用した地域のシンボル



ライトアップされた柱は森の木々をイメージして設計されました

地域材にこだわった 川上中学校校舎

平成21年3月に完成した川上中学校校舎は、川上村有林のカラマツ材をふんだんに使用して建てられました。川上村ではこの校舎をかつて林業王国として栄えた村の歴史や森林資源の重要性を生徒が学習できる地域のシンボリックな施設として位置づけました。そして、校舎の建設時には生徒達に建築材となる立木の伐採現場を見学する機会を提供するなど、先人達の残したカラマツ材という貴重な財産の活用に村をあげて熱心に取り組みました。

この校舎の建設には、カラマツの村有林約37ヘクタールを伐採し、合計1,035立方メートルの木材が使用されています。そのうち826立方メートルは構造用集製材、内・外装用板等として利用されたのはじめ、机やイスなどの備品に至るまで様々な活用され、木の「ぬくもり」が感じられる木質空間となっています。

また校内にある体育館や音楽堂は地域の施設でもあり、川上中学校の生徒はもとより地域の住民にも利用できるよう配慮されています。

特に音楽堂は緑あふれる中庭に続くよう配置され、その室内にはパイプオルガンが設置されており、まるでチャペルのような趣があります。「この学舎を巣立った卒業生たちが、将来ここで結婚式を・・・」との思いも込められています。